

世の中を知る、考える、 変えていく

——高校生からの社会科学講義

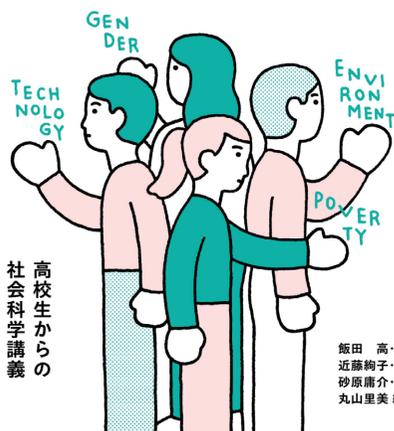
飯田 高 = 近藤絢子 = 砂原庸介 = 丸山里美 編

担当編集から 「最も巨視的な目で見れば、人間の社会は緩やかに望ましい方向へ向かっている。」ある著名な研究者から聞いて、希望を持ちました。けれども同時に、やはり身近なところでは様々な問題が起こっており、一つひとつ解決の糸口を探る状態にあります。あるいは解決の方法は概ねわかっていたとしても、何らかの事情でそれが実現できない状況にある場合も…。しかし、いずれにしろこの社会は私たちが何もしなければ変わらず、私たちにとって望ましい方向にも進まないでしょう。

本書は、社会科学の4つの学問分野で活躍する研究者が、4つの社会問題に対峙し、学問の格闘する様子を噛み砕いて伝えています。必ずしも解決方法は書かれていません。「望ましさととは？」と問い返す場面もあります。けれども、私たちが知性をもって社会と向き合うには、学問が必要です。成人を控える若者と、大人になってしまった私たち全員のために本書は編まれました。ぜひ手に取っていただければと思います。

(大原・岩田・四竜・渡部)

世の中を知る、考える、変えていく



飯田 高・
近藤絢子・
砂原庸介・
丸山里美 編

あなたの推しはどれ？

経済学 政治学 法学 社会学

有期間

「環境」「貧困」「テクノロジー」「ジェンダー」を軸に、それぞれの学問の特色、着眼点、アプローチの仕方、問題意識を伝える。進学を志す高校生、現代社会の課題と向き合うヒントを得たい読者に。

詳細を見る



レベル	用途	対象
初級	学習 教養	学部 一般

2023年7月発売 / 332頁 / 定価2420円(税込)
四六判 / 並製

Point 環境、貧困、テクノロジー、ジェンダーの諸問題に各分野から応答していきます。

Part I インTRODクシヨN

- 経済学: 効率性とインセンティブの観点から世の中を考える (近藤絢子)
- 政治学: 人を動かす力から世の中を考える (砂原庸介)
- 法 学: ルールの観点から世の中を考える (飯田 高)
- 社会学: 現実を把握することから世の中を考える (丸山里美)
- (コラム) 社会科学のなかの因果推論 / 裁判制度

Part II 環 境

- 環境問題と法はどのようにかかわっているか? (島村 健)
- 排出権取引で温暖化は食い止められるのか? (猪野弘明) / 国際環境協定をどのように促すか? (宇治梓紗) / 環境をめぐる人々の取り組みは世の中をいかに変えるのか? (青木聡子)

Part III 貧 困

- 現代社会における貧困とは? (知念 渉) / 貧困問題に法学はどのように取り組むか? (笠木映里) / 貧困を解決するための政策の効果と副作用とは? (森 悠子) / 貧困とどう向き合い、考えていくか? (木山幸輔)

Part IV テクノロジー

- なぜ人々は民主主義よりもAIを選ぶのか? (羅 芝賢) / 「データの私」と「生身の私」、どちらが私? どちらも私? (高野麻子) / 人工知能 (AI) とデータの時代の法学とは? (小塚荘一郎) / AIによって未来の仕事はようになるか? (渡辺安虎) / (コラム) 機械学習と社会科学

Part V ジェンダー

- なぜ女性は男性より賃金が高いのか? (原ひろみ) / 女性議員が増えれば政治は変わるのか? (松林哲也) / 社会のあり方は性別にどう関係するのか? (森山至貴) / 性別による区別・格差に法学はどう向き合うか? (石綿はる美)

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

